

国語科学習指導案 3年 〇組 単元名「夏草——『おくのほそ道』から」

単元観

情報化の進展に伴い、言葉を取り巻く環境は大きく変化した。自ら情報を集め、精査していく過程において、筋道を立てて考える力を培うことは必要不可欠である。

本単元は、松尾芭蕉の代表的な紀行文である「おくのほそ道」から、芭蕉の旅に対する思いを読み取るとともに、古典文学に触れ、伝統的な言語文化に親しむことをねらいとしている。学習内容としては、「C読むこと エ文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界観に親しむこと」などがある。

本単元では、芭蕉の旅に対する思いや生き方について、俳句と地の文から読み取ることができる。また、歴史的背景を踏まえて読むことで、複数の情報を関連付けて、筋道を立てて考えを組み立てる力も養えるという点でも意義深い単元である。

生徒観

本学級の生徒は、授業態度は落ち着いているが、発言する生徒には偏りがあり、自分の考えを表現することが苦手な生徒が多い。また、よく発言する生徒においても、発問の意図を捉えきれない上に、筋道を立てて説明することができずに周囲にうまく伝わらないことがある。

今年6月に実施された標準学力調査(教研式NRT)の結果を見ると、平均値は全国の水準とほぼ同じであったが、「効果的に伝わるように書くこと」と「論理的な構成を考えること」に課題があることが明らかになった。二つの課題の要因は、根拠と理由づけ(解釈)を区別して筋道を立てて考えたり、他者にわかりやすく伝えるための手だてを考えたりすることが苦手だからだと考える。そこで、本単元の指導において、鑑賞文を書いていく過程で、文章の構成や論理の展開、表現の仕方などを捉える活動を通して、芭蕉の旅に対する思いや考えを読み取る力をつけさせたい。

本時の評価

○本時の評価規準

本文の記述を根拠に、芭蕉の旅への思いや考えについて自分の考えを論理的にまとめることができる。

○本時の主眼

本文の記述を根拠にして芭蕉の思いや考えを読み取る活動を通して、論理的に自分の考えがまとめられるようにする。

○本時のめあて

「おくのほそ道」の冒頭から芭蕉の旅に対する思いを読み取る活動を通して、「芭蕉にとって旅とは何か」について自分の考えをまとめよう。

○本時のまとめ(授業の最後にふりかえること)

芭蕉にとって人生そのものである旅に対し、抑えきれない思いを抱え、人生をかけて旅に出た。

○本時の主眼を達成した生徒像

根拠を明確にして自分の考えを筋道を立てて構成することができる。

○本時の生徒に提示する評価のものさし

A	B	C
複数の根拠(本文の記述)を基に、芭蕉にとって旅にはどんな意味があるのかについて自分の考えをまとめることができる。	芭蕉は、旅についてどんな思いをもっているのかについて、本文を根拠に自分の考えをまとめることができる。	自分の考えは書けているが、根拠があいまいである。

指導観

本単元の指導にあたっては、本文や俳句から芭蕉の旅に対する思いや考えをつかむことによって、作品のおもしろさや、現代を生きる私たちとの共通の思いを考えさせたい。また、独特の漢文調の文章に親しみ、表現の特徴、それぞれの文章にそえられている俳句を鑑賞することで、芭蕉が推敲に推敲を重ねた格調高い文章を楽しませたい。そのためにまず、繰り返し音読を行う。ここでは、暗唱を目的とすることを示し、個人・ペア・全体など様々な形態で音読し、言い回しやリズムに慣れさせる。次に、それぞれの場面ごとの内容を理解するために、[1]では芭蕉の旅に対する思いを、[2]では歴史や生き方に対しての思いを文章の記述に基づいて芭蕉の思いや考えについて解釈させた上で読み取らせ、小集団による交流活動を通して、根拠や解釈を広げて深めるという活動を仕組む。その際、目的に沿った話し合いが行われるように、話し合いの手順や意見の述べ方を示す。最後に、作品に登場した俳句から特に印象に残ったものを選び、三百字程度の鑑賞文を書かせることで筋道を立てて論理的に、芭蕉の思いや考えを読み取らせたい。

	豊津スタンダード	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・基準
導入 10分	<b>思考を揺さぶる 授業展開</b> ① 見通しを持つ (評価のものさしの提示)	1. 始業の挨拶の後、漢字テストを行う。 2. 前時の振り返りを行ったあと、本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             めあて              「おくのほそ道」の冒頭から芭蕉の旅に対する思いを読み取る活動を通して、「芭蕉にとって旅とは何か」について自分の考えをまとめよう。           </div>	○松尾芭蕉と「おくのほそ道」についての基本事項を確認する。 ○評価のものさしを示すことで「何ができるようになればよいのか」見通しを持たせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             A：複数の根拠(本文の記述)を基に、芭蕉にとって旅にはどんな意味があるのかについて自分の考えを筋道を立ててまとめることができる。              B：芭蕉は、旅についてどんな思いをもっているのかについて、本文を根拠に自分の考えを筋道を立ててまとめることができる。           </div>	
展開 30分	②自分の考えを持つ ↓ ③自分の考えを広げる、深める	3. [1] を音読し古典のリズムに親しむ。 4. 本文を読み、芭蕉の旅についての思いや意味が読み取れる描写に線を引き、自分の考え(解釈)をワークシートに記入する。 ・早く旅に出たい ・ここに戻ってくることはない 5. 班で根拠と考え(解釈)を交流し、そこで新しく考えたことを青ペンでワークシートに記入する。 6. 班で出た意見を全体で交流し、意見の観点や新しく考えたことを赤ペンでワークシートに記入する。 7. 「芭蕉にとって旅とは何か」について自分の考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             予想される記述              A：芭蕉にとって旅は「命を懸ける価値のあるもの」である。なぜなら、旅立つ前に家を譲ったという描写から、命を懸けた芭蕉の覚悟が読み取れるからだ。また、旅に出たいという思いを、そぞろ神や道祖神の導きだと表現している。神様の力にはあらがうことができない。それほど芭蕉の思いは強かったと考える。              B：芭蕉にとって旅は「楽しみでたまらないもの」である。なぜなら、股引や笠の緒、三里の灸など旅に出るための準備をしている描写から、旅に慣れている様子や早く次の旅に出たいという思いが読み取れるからだ。           </div>	○漢文調の言い回しや対句を意識させる。 ○教師が訳文を読み、生徒が対応する原文を読むという活動によって文意を理解させる。 ○ワークシートを準備し、根拠と考え(解釈)を区別できるようにして自分の考えがどの記述を根拠としたものなのかを視覚化させる。 ○A評価になるために必要な根拠(本文中の記述)と考え(解釈)を他者との交流から見出し、自分の考え(解釈)を広げさせる。 ○黒板に本文を掲示し、生徒の考えを教師が深化、統合していく。自分の考えを文章化するために必要な言葉を全体交流の中で示す。 ○評価のものさしを再度確認し、A評価になる文章を意識させる。	芭蕉にとって旅とは何かという問いに対する自分の考えを、根拠を明確にした上で考えている。 (ワークシート、様相観察)
まとめ 10分	④「何ができたか」を評価のものさしを基に振り返る	8. 学習のまとめを行い、評価のものさしと照らし合わせて自己評価(振り返り)を行う。	○評価のものさしと照らし合わせて自己評価をさせる。 ○A評価・B評価になったのは、「どの根拠(本文中の記述)に着目できたからか」、「交流を通して、何に気づくことができたからか」をメタ認知させるために穴埋め式の振り返りシートを作成する。	(振り返りシート)